

社会福祉法人に問われてくること

ゆらくの里 支援課課長 中山 寛基

社会福祉法等の一部を改正する法律が3月31日に成立し、この4月1日から施行されました。（※法律の一部については、H29年4月1日に施行。）

改正内容では、特に「社会福祉法人制度の改革」が挙げられており、今年度施行の事項については、以下の通りとなっています。

1. 事業運営の透明性の向上
財務諸表、現況報告書、定款の公表に係る規定の整備など
2. 財務規律の強化（適正かつ公正な支出管理・内部留保の明確化）
役員等関係者への特別の利益供与を禁止
会計基準の省令への位置付け
3. 地域における公益的な取組を実施する責務
事業を行うに当たり、日常生活又は社会生活上支援を要する者に対して、
無料又は低額な料金で福祉サービスを提供することを責務として規定
4. 行政の関与の在り方
所轄庁による指導監督の機能強化

社会福祉法人は、公益的な事業であるが故に原則非課税となっています。

一方で、規制緩和により、税金の免除がない営利法人（一般企業）や一部の税金を支払うことで運営可能なNPO法人が福祉サービスに参入できることになり、これらに比べると社会福祉法人は優遇され過ぎではないかと言われるようになってきました。

そのような中、施設などの事業所で数々の虐待事件が起こったり、不正な請求が行われていたりしたことで、社会福祉法人に対するバッシングが強くなりました。前述の法改正は、それだけが原因ではないのですが…。

今後、私たち社会福祉法人に課されてくる課題は、益々複雑かつ多岐に渡るものになります。

しかし、法人の理念に乗っ取り、障害を持つ方々とそのご家族を支えることが私たちの使命であり、ご利用者ひとりひとりの個性に合わせ、その方の気持ちに寄り添う支援サービスを現場スタッフが行い、その現場スタッフを管理者が守る。そんな当たり前のことを当たり前に行うようにすれば、課題を乗り越えることが出来ると考えます。



法人研究発表会

2月27日

昨年4月から1年間、各グループ（事業）が27年度の研究課題を決め、取り組んできた事を研究発表として報告しました。利用者様のご家族にもご参観いただき、ポノビル 4 階のコミュニティホール「天空 HARERUYA」にて開催しました。各グループのテーマは以下の通りです。



ゆらくの里 1 班	入所支援における TEACCH の実践と意義
ゆらくの里 2 班	排泄ケアへの取り組み（その 2）
ゆらくの里 3 班	恋愛感情を豊かにするために ～支援は「生きる」を支え共に歩むこと～
ゆらくの里 4 班	相手の気持ちに寄り添って ～障害を持っておられる方の気持ちを理解し助け合う～
ゆらくの里 5 班	風鈴ファミリーの一年
児童支援課	箱庭制作による自己表現 ～しっくり感を体感しよう～
今人	その人らしい生活を求めて ～難病利用者支援～
我楽	スケジュール支援の取り組み ～Mさんの事例～
すみれの里	臨床動作法を用いたすみれの里での取り組み

その中より、最優秀賞に選ばれたゆらくの里 2 班の研究への取り組みを報告します。

～排泄ケアへの取り組み（その 2）～

平成 27 年度研究発表に於いて、健康サポートチームを高く評価頂き有難うございました。私たちが二年間に及び研究してきた『排泄ケアへの取り組み』は、ある利用者様がきっかけでした。

利用者様が安定した毎日を過ごしていただくために処方された薬には、必ず副作用があります。その一つが便秘です。そして、何も対処しなければ重度の便秘になられる為、下剤も同時に処方されます。服薬が多く長期にわたると、下剤量もそれに伴い増加し、腸は徐々にその刺激に慣れ、少量では効き目が無くなります。そして、さらなる下剤の増加となり、腸は黒く伸びたゴムのように伸縮性を失ってしまいます。食事少しでも腸を詰まらせることの無いようにと、固形物はどんどん無くなり、ゼリー状、ペースト状と消化器官に負担の無い形状に変わっていきます。

このような現状をなすすべもなく、見守らなければならなかった私達に、ある医療現場での対応を知る機会が有りました。それは、乳果オリゴ糖を使って腸内環境を整え、浣腸や下剤を使わず、自然排便を促すというものでした。さっそく研修会などに参加し、実践された方の声を聞き、研究論文を読み、食材仕入れ業者に問い合わせ、乳果オリゴ糖の導入に踏み切りました。一年目は、乳果オリゴ糖のみで対応していました。しかし、期待するような成果は出ませんでした。ただ、ブリストルスケールを使って便の形状を数値化することにより、全スタッフが共通認識のもと、利用者様の排便確認を出来るようになったに過ぎませんでした。そして今年度、成果を出せないままで終わったこの研究を再度見直し、取り組むことにしました。

まず、なぜ成果を得られなかったのかを考えました。

- 乳果オリゴ糖が少なかったのか・・・
- 運動を取り入れるべきか・・・
- 食物繊維が足りなかったのか・・・
- でも、運動が出来ない方への対応は？
- 残食状況は？

●ブリストルスケールとは・・・

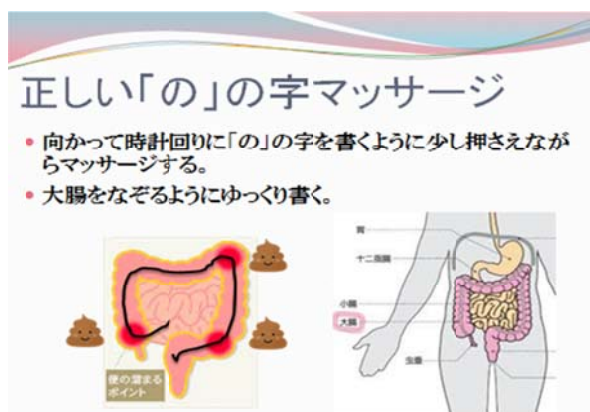
英国のブリストル大学で 1997 年に開発された世界的な「便」の基準を示すものです。

タイプ	Bristol Stool Form Scale	
1	硬くてコロコロの塊状の（排便困難な）便	硬便
2	ソーメン状であるが硬い便	
3	表面にひび割れのあるソーメン状の便	良いうんち
4	表面がなめらかで柔らかいソーメン状、あるいは蛇のようにとろろを巻く便	
5	ほつりしたしわのある柔らかい半分離形の（排便できる）便	
6	境界がぼけて、ふにゃふにゃの不整形の小片便、泥状の便	下痢便
7	全くとろろの水状便	

いろいろ検討した結果、まずオリゴ糖を増量させ、運動することが難しい方には、代わりに体を温めることを試みました。夏場は、気温の上昇もあり、温めることをあまり重点的にしていませんでした。すると、年間で一番気温の上昇する 8 月にとっても悪い結果となり、チーム一同驚きました。冷房の効いた館内で、半袖半ズボン素足で過ごされる利用者様の身体は、思いのほか冷やされ、腸への影響も大きかったのです。

そんな中、実際導入している方の意見を聞く機会がありお聞きした所、「乳果オリゴ糖は、すでに伸びきった腸では、効果は期待できない」とのことでした。暗礁に乗り上げたかのような私たちの研究課題に、行き詰まりを感じずには、いられませんでした。

しばらく途方に暮れる日々が過ぎ、肌寒くなり始めた秋、あるスタッフから白湯効果の情報を得る機会がありました。藁にもすがる思いで、さっそく白湯を導入しました。すると、始めた初期は意外にも効果がすぐ表れました。しかし、気温の低下と共に温かい温度での提供がうまくいかず、効果は薄くなりました。今後は、提供温度を一定に保つ工夫が必要です。そして、もう一人の方には白湯をゆっくり召し上がって頂くのが難しかったため、ヒートテックのような保温効果のある下着や靴下などで対応させて頂きました。同時に、昔から言われている「の」の字マッサージも導入しました。このマッサージは、我がチームの支援スタッフのベースにある医療知識が、最大の効果を発揮する事となりました。正しい「の」の字マッサージを行い、効果を得るには、基本的な医療知識が必要だという事が分かりました。まず、便は身体の中でどのように、どこで作られるのかを知っていなければなりません。そして、大腸は身体のどこに位置しているのか正確に分っていなければなりません。利用者様の身体に触れたとき、いつもと違うお腹の張りを感じ取る観察力も必要です。そして、忘れてならないのが、便が停滞し苦しめる利用者様を想う心だったと思います。



まず、便が作り始められる小腸から大腸に移行するあたりからマッサージし始め、便の停滞ポイントを押さえつつ、張りを感じればそこを重点的に何度も抑える。便の移行を意識しながら何度も愛情を持ってマッサージしたのが今回の結果に繋がったのだと思います。昔からよいと言われる「の」の字マッサージは、正しく行えば下剤で悪化した腸内環境の方でも、自然な排便を促すことが可能であると分かりました。

そして、便が排出されたから下剤を減らす、下剤が減れば乳果オリゴ糖がすぐに排出されることもなく、良い働きをする腸内細菌を育てることが出来ます。そして、良い状態の便が作られ、また排出され、その結果、下剤を使わず自然排便を促すことが出来るのではないのでしょうか。この様に良いサイクルを続けるには、今後も医療部門、支援部門、給食部門のさらなる連携と情報共有が不可欠だとも実感しております。私たちのこの研究が利用者様の健康をお守りする為、今後の支援に役立てて頂ければ幸いです。

ゆらくの里 管理栄養士 米田なおみ

平成28年事業計画案

当法人では、平成28年度の法人方針として「遠慮」を掲げます。遠くを慮るとは、大局から事象を見つめ、できるだけ客観的に判断し、未来を見据えた取り組みを進める事です。

今現在の福祉業界を見つめると、混沌とした中で将来像を描きにくい状況であります。しかし、当法人が目指すべき姿は社会に必要とされる事業体であります。その目指すべき姿に到達する為にもこれからの3年間で非常に重要であると考えています。

過去6年間の取組は、リスクを負ってでも生き残りをかけてご利用者のどんなニーズにも対応出来る事業体となる為、通所事業の充実を最優先課題として取組を進めてきました。これからの3年間は、通所事業の更なる充実と入所事業のリニューアルに向けた準備が優先課題となって取り組んでいくこととなります。

平成28年度予算

平成28年3月19日開催の理事会及び評議員会におきまして、下記予算を承認いただきました。法人全体としては、事業活動収入は前年度予算比102.7%増の720,953,000円、事業活動収支差額は前年度予算比102.7%増の77,992,350円を予定しております。

(単位:千円)

拠点名		ゆらくの里	今人	地域	合計	消去	合計
事業活動による収支	事業活動収入	391,653	156,417	177,583	725,653	△4,700	720,953
	事業活動支出	324,974	148,958	173,728	647,660	△4,700	642,960
	事業活動資金収支差額	66,678	7,459	3,855	77,992	—	77,992
施設整備等による収支	施設整備等収入	500	—	—	500	—	500
	施設整備等支出	12,670	500	28,012	41,182	—	41,182
	施設整備等資金収支差額	△12,170	△500	△28,012	△40,682	—	△40,682
その他の活動による収支	その他の活動収入	—	—	32,000	32,000	△32,000	—
	その他の活動支出	51,200	—	7,200	58,400	△32,000	26,400
	その他の活動資金収支差額	△51,200	—	24,800	△26,400	—	26,400
予備費支出		—	—	—	—	—	—
当期資金収支差額合計		3,308	6,959	643	10,910	—	10,910

※承認予算から内部消去の整理を行い表示しております。

法人内活動紹介 ～芸術活動 Part 2～

新年度に入り、また新たな気持ちで「アトリエそれいゆ」の皆様は制作に励んでおられます。

「アトリエそれいゆ」が始まって 11 年、様々な形で皆様の活動が花開いています。

■ 27 度に参加した展覧会等一覧

□ 「HAPPY SPOT NARA2015-2016」(奈良県主催)

今年で 5 回目を迎えるコミュニティ・アート・フェスティバルで、障害のある方もない方も、多くの方々と芸術活動の喜び・幸せを共有することができました。



HAPPY SPOT NARA2015-2016
左上から 植田隆介さん「Japan!」
山口裕樹さん「Square/blue」
左下から 高嶋和江さん「私の好きな金魚くん」
小山加嗣さん「ピーチ」

□ 「TURN フェス」展(東京都・アーツカウンシル東京主催)

芸術家の日比野克彦氏が監修した展覧会で、奈良県立大学の学生の模写と共に、東京都美術館にて展示されました。いらなくなった新聞紙を再利用して制作するスタイルが、そのセンスの良さと共に、大変好評を博しました。



TURN フェス
西谷光世さん「夢みるくじら」

□ 登大路総合法律事務所(奈良市登大路町)での展示

常日頃、芸術活動支援のアドバイスをいただいている、一般財団法人たんぼの家様とのご縁で、作品を飾っていただける機会を得ることができました。所長弁護士・田中啓義氏は、昨年開催された厚生労働省モデル事業「奈良地方・家庭裁判所での展示」に関わってくださった方で、今回作品の展示と共に、作者(ご利用者様)を法律事務所にお招きくださいました。余談ですが、田中氏に作品資料として作者プロフィールをお渡しする際、事前に内容確認を保護者様をお願いした所、「うちの子に、いつの間にこんなにアートの経歴がいっぱいできたのだろう。すごいなあ…」と驚きと共に、大変喜んでいただくことができました。



登大路総合法律事務所 展示
左上から 西谷光世さん「夢みるぞうさん」
唯吉 茜さん「風」
左下から 内田千恵さん「my little house」

□ 「ポコラート全国公募展 vol. 6」(アーツ千代田 3331・千代田区主催)

この公募展は、障害のある人もない人も自由に応募することができますが、とても難易度が高く、今回 1,634 作品中の 154 作品の入選で、その中で見事に入選する事ができました。ご本人は、お母様に貸してもらった水彩ペンで、一生懸命、夕日が沈む光景「落日」を想像で描かれました。



ポコラート全国公募展 vol. 6
吉原成信さん「落日」

芸術活動を通して、多くの方と喜びを共にし、幸せの輪がどんどん広がっていけば…という思いで、今日まで活動を続けて参りました。まだまだ道半ばですが、最終的に「この子(ご利用者様)がいなければ、こんな素晴らしい体験をすることもなかっただろう。この子がいてくれて、本当に良かった」と、仮に皆様に感じていただくことができるのであれば、「アトリエそれいゆ」の活動は大成功であると思います。これからも、努力精進して参りますので、何卒よろしくお願い致します。

アート活動「アトリエ それいゆ」
岡橋 三起子

第2回 かしば産業展

3月6日

3月6日（日）に香芝市ふたかみ文化センターにて、第2回かしば産業展が行われました。

当法人からは、我楽モンスターによるパンとクッキーの販売、今人で使用している公用車へのペイント依頼をうけ、参加させていただきました。パンとクッキーの販売では、子供たちによるお仕事体験があり、普段出来ないような体験に、とても充実した時間を過ごしていただきました。また、公用車へのペイントでは、香芝高校美術部の下絵をもとに、参加された子供たちが色塗りをして楽しんでいただきました。公用車は、香芝市内を走っていますので、見かけた際には、是非手を振って応援していただければと思います。



今人・我楽・すみれの里 入退所式

4月2日

4月2日（土）に香芝市の吉田弘明市長をはじめとする来賓の方々や、各事業所のご利用者様・保護者様にご臨席いただく中、香芝市総合福祉センターにて「今人・我楽・すみれの里」入退所式を開催致しました。当日は天候にも恵まれ満開の桜の中、4名の方が一般就職のため退所され（就職先 近商ストア、うどん杵屋、三寿福祉会友喜苑、(株)タツミ）、また、本年度から新たに我楽3名、すみれの里2名、計5名の方が加わることとなりました。

素晴らしい1年のスタートをきられた皆様が、この1年を賑やかに楽しく過ごすことができるよう、職員一同、力を合わせて支援していきます。



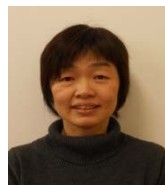
新入職員紹介



ひらやま かなこ
平山 加奈子 (2月1日入職)

我楽 さぼーと 正職員

2月から我楽(さぼーと)で務めることになりました。障がい者の方との関わりは初めてですが皆様が毎日、笑顔・楽しく過ごして頂けるように自分なりに頑張っていきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。



やすい よしこ
安井 淑子 (2月1日入職)

我楽 さぼーと パート

ご縁があって、さぼーとで働かせて頂くことになりました。分からない事ばかりで不安一杯ですが、明るいスタッフの方々と一緒に働けることを嬉しく思っています。利用者さんの笑顔と健康の為に頑張っていきたいと思えます。



おか こ
岡 ユウ子 (2月1日入職)

すみれの里 パート

2月よりすみれの里でお世話になります。皆さんと一緒に楽しく笑顔で1日過ごしていきたいです。宜しくお願いします。



いとう ゆきこ
伊藤 由紀子 (3月1日入職)

すみれの里 パート

3月からすみれの里で働かせていただいています。まだまだわからないことばかりですが、少しでも利用者様の笑顔がたくさん見られるように頑張りたいと思います。



たなか みき
田中 美樹 (3月1日入職)

ゆらくの里 パート

3月1日よりゆらくの里で勤務させていただいております。今はまだわからない事ばかりですが、一日でも早く戦力になれる様努力します。ご迷惑をおかけしますが、ご指導よろしくお願い致します。



おおふじ ふみ
大藤 文 (3月1日入職)

我楽 さぼーと パート

3月より我楽さぼーとで働かせてもらっています。大藤文です。ご迷惑を掛けることも多いと思いますが、頑張りますのでよろしくお願い致します。



わだ まゆみ
和田 真由美 (3月8日入職)

ゆらくの里 正職員

3月よりゆらくの里で勤務させて頂いております和田です。一生懸命頑張りますので、宜しくお願いします。



おおた まゆこ
太田 麻由子 (4月1日入職)

ゆらくの里 地域支援(コテージ) パート

まだまだ勉強すべきことがたくさんですが、思いやりを忘れず、色々な意味で広い視野を持てる支援を心がけたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



あしだか むつみ
芦高 睦美 (4月1日入職)

我楽 モンステラカフェ パート

4月からモンステラで働かせていただくことになりました。まだ、慣れていませんが頑張りますのでよろしくお願い致します。

ご利用者様のために
精いっぱい頑張ります
どうぞよろしくお願い致します



日本財団助成事業完了のお知らせ



このたび日本財団から平成 27 年度助成金の交付を受け、下記の事業を完了いたしました。

ここに完了のご報告を申し上げますと共に、日本財団をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。



記

- | | |
|-----------|------------------------|
| 一. 事業名 | 車いす対応車（車いす 2 名）の整備 |
| 一. 事業内容 | 日産 キャラバンチェアキャブM仕様 |
| 一. 事業費総額 | 2, 6 9 3, 0 0 0 円 |
| 一. 助成金額 | 2, 1 0 0, 0 0 0 円 |
| 一. 施設名称 | すみれの里 |
| 一. 施設所在場所 | 奈良県香芝市逢坂 1 - 5 0 9 - 1 |
| 一. 完了年月日 | 平成 2 8 年 3 月 1 8 日 |

《賛助会員ありがとうございました》

多くの方よりご寄附いただきありがとうございました。皆様方からの寄付を施設整備等、有効に活用させていただき、ご利用者のために使用させていただきます。

《ゆらくの里》

牧村元嗣、片上芳子、川本雅代、増尾明広、堀井信裕、中筋廣次

《地域事業》

池上治人、平田典子、中塚正人、堀謙輔

《業者ほか》

山本正樹、(株)タクサン 谷本淳、船木燃料店 船木二男、阪本石油(株) 阪本恵津男、
(株)ステップワン 村井大介

(順不同、敬称略)

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。
寄付金控除を受けるための領収証をご希望の方は「通信欄」にてご連絡ください。

《編集後記》

寒さも遠のき、暖かな春の陽気に包まれ、とても過ごしやすい季節となりました。新たな出会いや新たなスタートがある 4 月は、まさに人生の節目と言えます。新たな目標を掲げ、新たな仲間と共に今年度も頑張っていきたいと思えます。

発 行： 社会福祉法人 以和貴会
住 所： 〒639-0261
奈良県香芝市尼寺 6 1 6 番地
編集責任者：理事長 下村 卓司
Mail： office@yuraku.or.jp
発行： 平成 28 年 4 月